

## なぜ、小学校に遊具が…



なぜ、小学校に遊具があると思いますか。多分、「そんなことを考えたことない。」という方が多いのではないのでしょうか。筆者は、昨年度、「姿勢」について研究していました。そこで、わかったことですが、学校って、よくできているなあと思いました。

まず、滑り台で滑ったり、ブランコを漕いだりすると楽しいです。この楽しさを味わうために遊具があると考えますが、それだけではないのです。

滑り台、ブランコなどの遊具は、感覚育成にも役立っているのです。感覚には、視覚、聴覚など、様々なものがありますが、姿勢の面から考えると、平衡感覚の育成に役立っています。物を平行に見ることで情緒が安定します。しかし、滑り台やブランコに乗ることでこの平衡感覚が乱れ、情緒が不安定になります。これがよいのです。滑り台やブランコが感覚を刺激しているのです。

人間の発達段階を示すのものの一つとして、スキヤモン曲線というグラフがあります。このグラフによると、感覚機能は、10歳位でピークを迎えます。つまり、小学生時代が感覚を鍛えるのにピッタリな時期ということになります。

学校では、体育の時間を中心にして、遊具で遊ばせていきます。ご家庭でも、是非、公園の遊具で遊ばせてください。

公園の遊具で遊ぶことにより、子どものパーソナルスペースが広がります。幼稚園・保育園時代は、お母さん（お父さん）の傍から、子どもは離れたがりません。それは、不安だからです。はじめは、公園に行っても子どもは、遊具で遊ばないかもしれません。お母さん（お父さん）から、離れたくないからです。滑り台やブランコで遊ぶことにより、パ

パーソナルスペースが広がり、お母さん（お父さん）の傍から離れても大丈夫だと思うようになります。滑り台・ブランコの上から、お母さん（お父さん）が見えているので、安心です。ここでの場面は、辛抱してください。少しでも、お母さん（お父さん）が見えなくなると、泣きわめくかもしれません。情緒が不安定になるかもしれません。『お母さん（お父さん）は、見ているよ』というサインをお子さんに見せつつ、少しずつ、お子さんから離れていきます。そうすると、お子さんのパーソナルスペースが少しずつ広がります。

急にはやらないでください。少しずつです。まずは、遊具で遊ばせてあげてください。